

2021年度 事業報告書

事業実施の方針

- ・「困った時はおたがいさま」の心で助け合い、助け合いの輪を地域に広げる
- ・一人一人の困難に向き合い、その人がその人らしく生活できるよう、心に寄り添う支援を行う
- ・世代を超えた人と人との絆を大切にし、互いに学び合い、支え合いながら、生きがいや自己の実現につなげる

2021年度 目標

- ・自分の役割に、つなぐ意識と責任を持ち、一つ一つに心を込める
- ・絆まるごと、心地いい居場所にする

2021年度の取り組み・成果

- ・長期化するコロナ禍で希薄になった人とのつながりを取り戻すべく、それぞれの立場で「人と人をつなぐ」「地域とつながる」「人につながる」意識を持って、各事業を展開した
- ・絆や居場所を利用される方や活動する一人一人にとって、関わる場所が居心地よく、愛着が持てる場所となるようそれぞれに意見を出し合い、環境整備を行った

課題

- ・感染予防に配慮しつつ、地域のニーズを見極め、イベントや企画を計画していく
- ・それぞれの立場の気づきを大切にし、尊重し合いながら、行動力を高める

2022年度 事業計画書

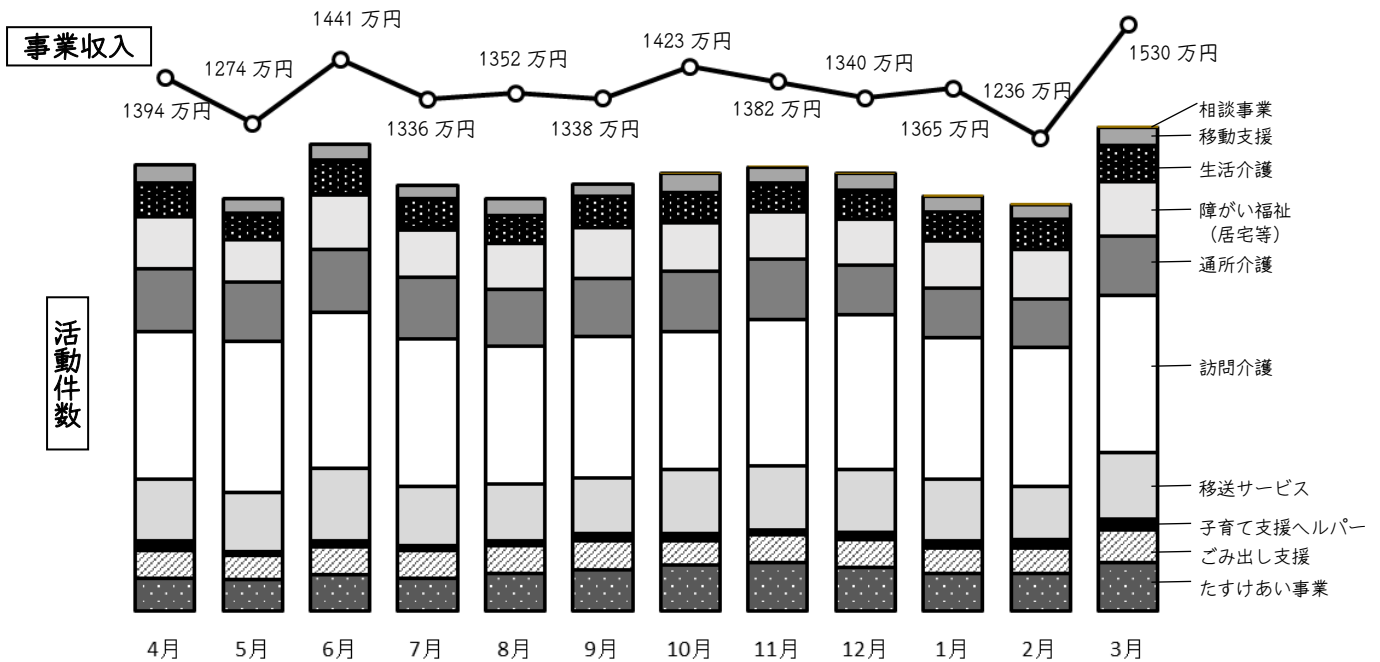
2022年度 目標

「理念と言行の一致」

一人一人が、絆のミッションを確認し、意識や行動に反映させる

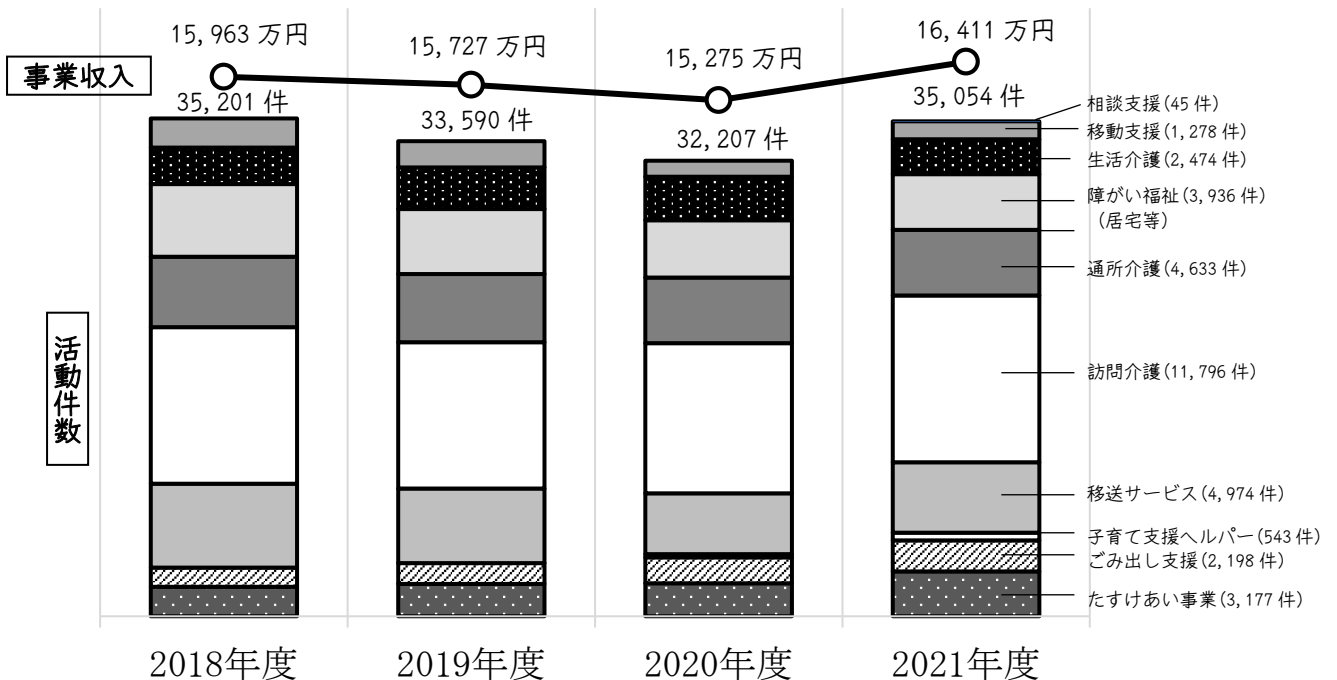
グラフでみる 2021年度

① 年間の活動件数と事業収入の推移（ふれあい事業・物品販売を除く）



2度の緊急事態宣言や年明けのまん延防止等重点措置期間中に、若干の自粛傾向は見られたが、活動件数・事業収入とも、ほぼコロナ前の水準に戻ってきた。特に、たすけあい事業や訪問介護等、訪問部門が伸びており、全体の底上げにつながった

② 4年間の活動件数と事業収入の推移（ふれあい事業・物品販売を除く）



I. 特定非営利活動に係る事業

たすけあい

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：在宅福祉サービスに関する事業

【担当】 たすけあい 絆・ヘルパーステーション 絆 【主任】 富田 真理子

【実施場所】 東浦町及び近隣市町のご利用者宅 または 地域たすけあいセンター 絆

事業概要

現行の公的制度では対応ができない家事援助・身体介護・話し相手・子育て支援・代行などの在宅支援や、家で一人では心配な方などに、気軽に通える場の提供などを行う

事業報告

【従事者人数】 絆会員 73 人 【実施日】 通年随時 年間 3,177 件

【受益者】 絆会員 114 人 【事業収益】 7,437,941 円

2021 年度 目標

- ・絆の会報やパンフレットを常に持ち歩き、新たにご利用者・活動者・賛助会員の発掘に努める
- ・制度のハザマを埋める役割を意識し、サービス内容の具体例を示すなどして、たすけあいの周知を図る

活動内容・成果

- ・介護保険等制度との併用も目立ち、制度ではできない部分（ハザマ）の支援を担うことができたと思う



今後の課題

- ・たすけあい事業の会員増加を目指す（利用・活動・賛助会員の発掘に努める）
- ・活動者間の意識統一、サービス内容の統一をすることでご利用者の信頼を得て満足度をあげたい
- ・緊急時の事業継続の方法を考える

事業計画

【従事者人数】 絆会員 80 人 【実施日】 通年随時 年間 3,500 件

【受益者】 絆会員 120 人

2022 年度 目標

ニーズ増加に応えられるよう担い手を増やし、安心・安全なサービスを実施する

移送サービス（福祉有償運送）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：移送サービスに関する事業

【担当】 たすけあい 絆・ヘルプステーション 絆 【主任】 富田 真理子

【実施場所】 東浦町及び近隣市町のご利用者宅 または 病院、施設等

事業概要

通院や買い物、社会参加など、外出の際に公共交通機関を利用して出かけられない方へ、福祉有償運送サービスを行う

事業報告

【従事者人数】 絆会員 38人 【実施日】 通年随時 年間 4,974件

【受益者】 絆会員のご利用対象者 169人 【事業収益】 9,526,210円

2021年度 目標

- ・安全運転講習を行い、運転者の質の向上を目指すと共に、新たな担い手を育成する
- ・継続して感染対策を行いつつ、安心・安全な移送サービスを提供する

活動内容・成果

- ・通院のための移送依頼が目立ち、ニーズの高さを感じている
- ・運転者の質の向上のため、法人独自の安全運転講習を行った
- ・一方、コロナの影響で運転資格取得の講習の開催が減り、新たな担い手はあまり増やせなかった



今後の課題

- ・移送サービスのニーズに応えるため、担い手を増やす必要あり
- ・緊急時の事業継続の方法を考える

事業計画

【従事者人数】 絆会員 42人 【実施日】 通年随時 年間 5,500件

【受益者】 絆会員のご利用対象者 190人

2022年度 目標

ニーズ増加に応えられるよう担い手を増やすとともに、定期的な講習会を開催し、安心・安全なサービスを実施する

訪問介護

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：介護保険法に基づく居宅サービス事業、第1号訪問事業

【担当】 ヘルパーステーション 絆 【主任】 富田 真理子

【実施場所】 東浦町及び近隣市町のご利用者宅

事業概要

その人がその人らしく暮らし続けるために、他機関と連携を図りながら、気持ちに寄り添った支援をチームで行う

事業報告

【従事者人数】 絆会員 53人 【実施日】 通年随時 年間 11,796件

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 179人 【事業収益】 42,699,809円

2021年度 目標

- ・モニタリングを強化し、ご利用者の声を聴き、迅速に支援に活かす
- ・ご利用者全員の事例検討会議を行い、統一した支援が行えるようにする
- ・個別研修計画に基づき職員研修を行い、ヘルパーステーション全体の底上げを図る

活動内容・成果

- ・新型コロナウイルス感染症まん延予防のため、対面研修はほとんどできず、ネット研修をいつでもどこでも受けられる体制を整えた
- ・モニタリング等を行うため、ご利用者やご家族に話を聴く機会をもつよう心掛け、定期訪問につなげた
- ・事例検討会はコロナ感染症の状況をみながら、必要最低限の開催となってしまった
- ・ラインワークスを導入し、支援経過を皆が情報として得ることを可能とし、支援者同士の情報交換をし、サービス内容統一などに役立てていくことができた

今後の課題

- ・活動者間の意識統一、サービス内容の統一をすることでご利用者の信頼を得て満足度をあげたい
- ・緊急時の事業継続の方法を考える

事業計画

【従事者人数】 絆会員 60人 【実施日】 通年随時 年間 13,000件

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 200人

2022年度 目標

「定期訪問の実施」「チームカアアップ」

- ・最低6か月に1回、サービス提供責任者がモニタリングを実施
- ・ICT化を進め、情報共有と迅速な対応でサービスの質向上を目指す
- ・モニタリング前後で活動者に意見を聞き、事例検討や研修会につなげる
- ・引き続き感染症対策を維持し、安定的な支援の継続が可能な体制を整える

子育て支援ヘルパー（児童課委託）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：在宅福祉サービスに関する事業

【担当】 たすけあい 絆 【担当者】 友永 涼子

【実施場所】 東浦町 利用者宅 または 病院等

事業概要

妊婦または乳幼児のいる母親が、病気などで家事・育児が困難な際にヘルパーを派遣し、子育てを支援する

事業報告

【従事者人数】 絆会員 30 人 【実施日】 通年随時 年間 543 件

【受益者】 東浦町内ご利用対象者 22 人 【事業収益】 2,519,385 円

2021 年度 目標

- ・安心して子育てができるよう支援するとともに、委託契約終了後にも支援の必要な方を他機関につなぐなど、切れ目のない伴走型の支援を行う

活動内容・成果

- ・昨年度 237 件から大幅に依頼が増えたため、活動者を増員し、できる限り依頼に応えられるよう体制を整えた
- ・活動者の増加に伴い、子育てに対する考え方や支援内容にバラツキが生じたため、事例検討会を多く開催し、意見交換を行った



今後の課題

- ・活動者間の意識や支援内容を統一することで、ご利用者の信頼を得て満足度をあげたい
- ・緊急時の事業継続の方法を考える

事業計画

【従事者人数】 絆会員 35 人 【実施日】 通年随時 年間 600 件

【受益者】 東浦町内ご利用対象者 25 人

2022 年度 目標

- ・多種多様なニーズをもったご利用者（親御さん、お子さん）に対し、的確な支援が実施できるよう、事前の研修や事例検討会を実施していく

障がい福祉（居宅介護・重度訪問介護・同行援護）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業

【担当】 ヘルパーステーション 絆 【主任】 冨田 真理子

【実施場所】 東浦町及び近隣市町の利用者宅

事業概要

その人がその人らしく暮らし続けるために、他機関と連携を図りながら、気持ちに寄り添った支援をチームで行う

事業報告

【従事者人数】 絆会員 47人 【実施日】 通年随時 年間 3,936件

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 40人 【事業収益】 20,035,623円

2021年度 目標

- ・個別研修計画に基づき職員研修を行い、ヘルパーステーション全体の底上げを図る
- ・定期的なモニタリングと事例検討会議を開催し、チーム支援を強化する

活動内容・成果

- ・新型コロナ感染症まん延予防のため、対面研修はほとんどできず、ネット研修をいつでもどこでも受けられる体制を整えた
- ・モニタリング等を行うため、ご利用者やご家族に話を聴く機会をもつよう心掛け、定期訪問につなげた
- ・事例検討会はコロナ感染症の状況をみながら、必要最低限の開催となってしまった
- ・ラインワークスを導入し、支援経過を皆が情報として得ることを可能とし、支援者同士の情報交換をし、サービス内容統一などに役立てていくことができた

今後の課題

- ・活動者間の意識統一、サービス内容の統一をすることでご利用者の信頼を得て満足度をあげたい
- ・緊急時の事業継続の方法を考える

事業計画

【従事者人数】 絆会員 52人 【実施日】 通年随時 年間 4,500件

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 45人

2022年度 目標

「定期訪問の実施」「チームカアアップ」

- ・最低6か月に1回サービス提供責任者がモニタリングを実施
- ・ICT化を進め、情報共有と迅速な対応でサービスの質向上を目指す
- ・モニタリング前後で活動者に意見を聞き、事例検討や研修会につなげる
- ・引き続き感染症対策を維持し、安定的な支援の継続が可能な体制を整える

移動支援

【事業名】特定非営利活動に係る事業：障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律に基づく地域生活支援事業

【担当】ヘルパーステーション 絆 【主任】富田 真理子

【実施場所】東浦町及び近隣市町の利用者宅 または 外出先

事業概要

ご利用者の意思を尊重し、気持ちに寄り添いながら、その人らしく過ごせる余暇支援を行う

事業報告

【従事者人数】絆会員 49人 【実施日】通年随時 年間 1,278件

【受益者】絆会員のご利用対象者 57人 【事業収益】10,137,764円

2021年度 目標

- ・行動制限の範囲内でも楽しみが見つけれられるよう工夫をする
- ・社会資源をフル活用し、多職種と連携を図る

活動内容・成果

- ・コロナ状況に左右され、行動範囲が制限されたが、できる限りの対応を心がけた

今後の課題

- ・感染症まん延状況等に応じて、柔軟に対応できる体制を整える
- ・緊急時対応（災害や急な体調不良等）の再研修



事業計画

【従事者人数】絆会員 55人 【実施日】通年随時 年間 1,400件

【受益者】東浦町及び近隣市町の方 65人

2022年度 目標

「チームカアップ」

- ・定期的に活動者や関係機関に意見を聞き、支援の質向上につなげる
- ・活動者が安心して活動できるよう、緊急時対応等の研修を実施していく
- ・引き続き感染症対策を維持し、安定的な支援の継続が可能な体制を整える

ごみ出し支援（環境課委託）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：在宅福祉サービスに関する事業

【担当】 たすけあい 絆 【担当者】 高崎 伝 【実施場所】 東浦町 ご利用者宅

事業概要

同一世帯で65才以上の方、もしくは避難行動要支援者名簿に登録されている方を対象に、1回50円で、燃えるごみをご自宅からごみステーションまで運び出す、ごみ出しの支援

事業報告

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 22人 【実施日】 毎週火・木曜日 朝 年間 2,198件

【受益者】 東浦町内ご利用対象者 67人 【事業収益】 1,163,415円

2021年度 目標

地域にアンテナをめぐらし、より身近な地域でのボランティア発掘システムを構築する

活動内容・成果

- ・受益者数・利用件数とも前年度より約2割増加しており、ごみ出しニーズの高さがうかがわれる
- ・ケアマネージャーの紹介で利用を開始される方が多く、町内の支援事業所へ当事業の認知が進んできたことを実感する

今後の課題

- ・ご利用者の増加に対し、新規従事者をほとんど開拓できていないため、ボランティアさん一人一人の負担が大きくなっている
- ・ご利用者に一番身近な民生委員との連携を密にし、地域の中で助け合える仕組み作りが必要である



事業計画

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 25人 【実施日】 毎週火・木曜日 朝 年間 1,829件

【受益者】 東浦町内ご利用対象者 54人

2022年度 目標

- ・ヘルパーステーション 絆や民生委員とも連携しながら、ご利用者の状況やその地域の人的資源の把握に努め、より身近な地域でのたすけあいの輪を拡げる
- ・ボランティア数、10%増

通所介護

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：介護保険法に基づく居宅サービス事業、第1号通所事業

【担当】 デイサービスセンター 絆 【主任】 竹内 恵子

【実施場所】 地域たすけあいセンター 絆

事業概要

自己選択、自己決定の仕組みを大切に、ご利用者一人一人の意思を尊重し、生きがいのある楽しい1日になるよう支援を行う

事業報告

【従事者人数】 絆会員 36人 【実施日】 月～金曜日 年間 4,633件

【受益者】 東浦町の方 58人 【事業収益】 40,743,343円

2021年度 目標

- ・意見交換をしっかりと行い、チーム力で課題解決に取り組む
- ・一人一人の「できる・好き・得意」を活かして、役割と居心地よい居場所をつくる

活動内容・成果

- ・『ひやり・はっと』の事例を年間 158件提出した。その検証を行うことで話し合う機会が増え、チームワークの向上につながった

今後の課題

- ・重度認知症の方や自己主張できない方の場合、本当にご利用者が好きな事を選んで過ごされているか疑問も残る
- ・ご利用者の様子をよく観察し、自己選択・自己決定につなげていくことが課題である



事業計画

【従事者人数】 絆会員 36人 【実施日】 月～金曜日 年間 4,800件

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 60人

2022年度 目標

聴いて 感じて 心の声をキャッチし 見極めよう

生活介護

【事業名】特定非営利活動に係る事業：障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業

【担当】さくさく工房 絆 【主任】亀石 綾穂

【実施場所】地域たすけあいセンター 絆

事業概要

- ・日常的に介護を必要とする方に対して、日中活動を行う
- ・自己選択・自己決定を大切にし、ご利用者の気持ちに寄り添う支援を行う

事業報告

【従事者人数】絆会員 28 人 【実施日】月～金曜日 年間 2,474 件

【受益者】東浦町及び近隣市町の方 26 人 【事業収益】29,169,438 円

2021 年度 目標

「やりたい」「やってみたい」を増やし、一歩前進



活動内容・成果

- ・「私は、これならできる」と自信を持っていただきたくて決めた目標。全員に1つ「やりたい」「やってみたい」ことを考えてもらい、スタッフと一緒に計画を進めた
- ・コロナ禍で実行できなかった目標もあったが、半数程の方には、「旧友と会いたい」「バーベキューをしたい」「ハンドベルの演奏会を見たい」など、「やりたい」を実行し、「やればできる」を実感していただいた

今後の課題

- ・「やりたい」を引き出すことが難しいご利用者の場合、スタッフ主導で決めてしまった
- ・目標は決めただけで、なかなか行動に移せない方も半数いらした。その原因を共に考え、一歩踏み出すきっかけを作ることが課題である

事業計画

【従事者人数】絆会員 28 人 【実施日】月～金曜日 年間 3,000 件

【受益者】東浦町及び近隣市町の方 30 人

2022 年度 目標

「行動する」そして続けよう

- ・大きな目標も小さな目標もまずは最初一歩を踏み出そう
- ・小さな積み重ねがいつか大きな力になる

相談支援

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく特定相談支援事業・児童福祉法に基づく障害児相談支援事業

【担当】 相談支援センター 絆 【主任】 中村 希代美

【実施場所】 東浦町及び近隣市町のご利用者宅 及び 地域たすけあいセンター 絆

事業概要

日常生活全般の相談を受け、その人らしく生活が送れるよう「サービス利用計画書」の作成を行う
(2021年10月開所)

事業報告

【従事者人数】 絆会員 4人 【実施日】 月～金曜日 半期 45件

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 23人 【事業収益】 668,277円

2021年度 目標

関係機関と連携しながら、事業所として基盤を創る

活動内容・成果

- ・多方面からの協力を得て開所することができた
- ・地域課題であったセルフプランの解消の一翼を担うことができた
- ・「行動障害支援体制加算」「精神障害者支援体制加算」の加算用件の研修終了

今後の課題

- ・通年での業務量を把握し、相談支援専門員2名で、より多くの計画相談を、質を確保しつつ行えるよう調整する
- ・他相談支援事業所の力を借りながら、より多様なケースにも対応できるスキルを積み上げる



事業計画

【従事者人数】 絆会員 4人 【実施日】 月～金曜日 年間 150件

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 30人

2022年度 目標

- ・関係機関とのハウレンソウをパワーアップ
- ・ご利用者と家族の伴走者となる

居場所事業

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【担当】 特定非営利活動法人 絆

【担当者】 成田 泉(さをり織り)・友永 涼子(コミュニティカフェ)・永井 夕子(お茶を楽しむ会)

【実施場所】 さをり工房 あんきにきて家(さをり織り)

地域たすけあいセンター絆 風ハウス(コミュニティカフェ・お茶を楽しむ会)

事業概要

どなたでも利用できる居場所として、「さをり織り教室」「風喫茶」「お茶を楽しむ会」を定期開催し、絆を身近に感じてもらう

事業報告

さをり織り教室

【従事者人数】 絆会員 1人 【実施日】 火・木・土曜日 年間107日

【受益者】 絆会員 515人(延べ) 【事業収益】 695,240円

コミュニティカフェ 風喫茶

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 15人 【実施日】 第1火曜・第3金曜日 年間16日

【受益者】 地域の方 701人(延べ) 【事業収益】 155,900円

お茶を楽しむ会

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 2人 【実施日】 月1回 水曜日 年間10日

【受益者】 地域の方 385人(延べ) 【事業収益】 81,195円

2021年度 目標

新型コロナ感染予防に配慮しながら居場所を継続しつつ、地域の方に絆の事業に関心を持ってもらえるようにする

活動内容・成果

- ・コロナ禍で縮小した部分もあるが、感染予防に気をつけ居場所の提供ができた
- ・地域の方も絆の利用者さんもいつもと違った空間で楽しい時間を過ごせた

今後の課題

コロナ禍でイベントが少なく、地域の方に知っていただくことが難しかった

事業計画

さをり織り教室

【従事者人数】 絆会員 1人 【実施日】 火・木・土曜日 年間 103日

【受益者】 絆会員 515人 (延べ)

コミュニティカフェ 風喫茶

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 15人 【実施日】 第3金曜日 年間 12日

【受益者】 地域の方 540人 (延べ)

お茶を楽しむ会

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 2人 【実施日】 月1回 水曜日 年間 12日

【受益者】 地域の方 480人

2022年度 目標

コロナ感染予防対策を継続し、安心できる居場所を提供するとともに、絆の事業に関心を持ってもらう



福祉拠点普及促進コーディネーター事業(ふくし課委託)

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【担当】 特定非営利活動法人 絆 【担当者】 山崎 紀恵子

【実施場所】 地域たすけあいセンター 絆、地域の縁側 グリーン・ラソ、喫茶 ラソプラザ等

事業概要

地域住民が担い手として活動する場の確保、人材育成、居場所に関する相談・研修・啓発・協議体への参加協力を行う

事業報告

【従事者人数】 絆会員 2人 【実施日】 通年随時

【受益者】 地域の方 【事業収益】 6,900,000円

2021年度 目標

- ・地域住民に対し居場所への関心を高め、参加する人、活躍する人、運営する人材を増やすため、居場所セミナーや、課題に取り組むワークショップを開催する
- ・定期的な相談日を設け、相談しやすい環境や支援体制をつくる

活動内容・成果

- ・地域住民を対象にした居場所セミナーを企画し、居場所の課題を整理することができた
- ・居場所セミナーを開催し、ワークショップにつなげることで、地域の人たちの関心を高め、対策を検討することができた
- ・月に一度、夜開催の相談日を設けたが、活用には結びつかなかった。ただ、相談を受ける意識にはつながり、随時、積極的に応じることはできた

今後の課題

- ・ボランティアさんや、地域住民の声に耳を傾け、より利用され、より多くの人が活躍しやすい居場所にしていく
- ・居場所に関する相談に的確に応えられるよう意識を高め、居場所経営や新たな取り組みを学んでいく

事業計画

【従事者人数】 絆会員 2人 【実施日】 通年随時 【受益者】 地域の方

2022年度 目標

多様な居場所づくりに関わり、新たな試みにチャレンジする

常設居場所事業（地域の縁側 グリーン・ラソ）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【担当】 特定非営利活動法人 絆 【担当者】 高崎 幸子

【実施場所】 地域の縁側 グリーン・ラソ

事業概要

0～100歳、どなたでも利用できる、自分らしく活躍できる居場所を提供するとともに、絆を知っていただく機会を設ける

事業報告

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 93人 【実施日】 月～金曜日 年間 219日（貸し出しを除く）

【受益者】 地域の方 5,903人（延べ） 【事業収益】 1,447,010円

2021年度 目標

- ・居場所の役割の周知や、新たな当番さん獲得のために、チラシを作りPRする
- ・土曜・日曜にも開館できるような人材の発掘

活動内容・成果

- ・緊急事態宣言等での休館や、ランチ・イベントの自粛もあったが、体操やコンサートなど、新たな試みも盛り込みながらイベントを復活し、来場者も徐々に戻ってきた
- ・地域の有志からなる「Re：グリーン・ラソ」の力を借り、建物外のテラスに縁側を設置「Bee テラス」と命名、気軽にグリーン・ラソに立ち寄ってもらえる仕組みに挑戦した
- ・券売機を導入し、どなたでも気兼ねなく当番ができる体制を整備した

今後の課題

- ・Bee テラスを有効に使い、室内にいざなう試みや、土日の活用につなげる
- ・コミュニティともつながり、多世代の利用や、新たな人材の発掘・利用につなげる



事業計画

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 100人 【実施日】 月～金曜日 年間 239日

【受益者】 地域の方 6,500人（延べ）

2022年度 目標

世代を超えてたくさんの人たちが絆を紡ぎ、心地よく過ごせる居場所を目指す

常設居場所事業（地域の縁側 喫茶 ラソプラザ）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【担当】 特定非営利活動法人 絆 【担当者】 友永 涼子

【実施場所】 地域の縁側 喫茶 ラソプラザ

事業概要

食を介して、地域の方が気軽に集まれる居場所を提供するとともに、ボランティアとしてどなたでも自分らしく活躍できる場を設ける

事業報告

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 39人 【実施日】 火～金曜日 年間194日（貸し出しを除く）

【受益者】 地域の方 6,687人（延べ） 【事業収益】 3,352,381円

2021年度 目標

- ・ラソ・プラザを知ってもらうためにチラシを作り、参加者や支援者を増やす
- ・ラソ・プラザをより有効に利用してもらえるよう、アンケートをとって対策を考える
- ・土曜・日曜にも開館できるような人材の発掘



活動内容・成果

- ・チラシ作成の技術は向上したが、有効活用には結びつかなかった
- ・アンケートをとることで、新たなメニューの投入につながった
- ・喫茶店風の居場所を強調するために、店名を「地域の縁側 喫茶ラソプラザ」に改名した
- ・月に一度のフリーマーケット「ラソ市」がスタートし、新たな賑わいと収益につながった

今後の課題

- ・企画がないと午後からの来場者が少ないことから、新たな企画や、人材育成を考える
- ・地域のニーズを見極め、地域住民の意見を取り入れながら、持続可能な運営を模索する

事業計画

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 45人 【実施日】 火～金曜日 年間190日

【受益者】 地域の方 7,400人（延べ）

2022年度 目標

ラソプラザの利用者数を10%アップ

Ⅱ. その他の事業

物品販売に関する事業

【担当】 特定非営利活動法人 絆

【担当者】 山崎 紀恵子（ふれあいマーケット）・村瀬 文康（まつり模擬店）

【実施場所】 地域たすけあいセンター 絆、地域の縁側 グリーン・ラソ、喫茶 ラソプラザ等

事業概要

- ・季節の野菜や手作り品の販売、リサイクル品の寄付を通して、活躍できる・楽しめる場を提供する
- ・絆まつり、於大まつり、にじいろフェスタの出店を通して、地域の方と交流を図り、絆を知っていただく

事業報告

【実施日】 月～金曜日（ふれあいマーケット）

【受益者】 地域の方 【事業収益】 551,230 円

2021年度 目標

物品販売を、新たな出会いにつなげよう！

活動内容・成果

- ・季節の果物や野菜の販売は、利用者さん、活動者さん、地域の方にも大変好評だった
- ・様々な物品は、見るだけでも楽しみだと、多くの人に喜んでいただけた
- ・これまで出会うことのなかった方からも、様々な物品をご寄付いただけるようになった

今後の課題

- ・商品の入れ替えがスムーズに行えず、魅力的なマーケット作りに課題が残った
- ・事務所内にある物品置き場の整理が追い付かず、すぐに雑然となってしまった
- ・コロナの影響で、三大祭りが中止となり、模擬店が行えなかった

事業計画

【実施日】 月～金曜日（ふれあいマーケット）・随時（まつり模擬店） 【受益者】 地域の方

2022年度 目標

物品販売を、さらに新たな出会いにつなげよう！

Ⅲ. 委員会活動

感染症対策委員会

【委員長】石川 美恵 【委員数】6名 【開催回数】年間6回

2021年度 目標

- ・新型コロナウイルス対策のBCPを作成し、作成済の対策マニュアルの検証・見直しを継続する
- ・感染症への注意喚起を行い、対策を講じる

活動内容・成果

- ・コロナウイルス感染のステージ毎の各部署の対策を示した表を作成し、周知を行った
- ・スタッフの健康記録表作成や、室内換気の回数、CO2測定など、感染予防の提案を行った

今後の課題

マニュアルやBCPを作成した当時に比べ、コロナに対する社会の認識や対策が変化しており、また、陽性者の発生部署により事業所への影響力が変わるため、見直しを行う

2022年度 目標

より実効性のある感染対策BCP作成し、各部署に浸透させる

ここ de キャッチ委員会

【委員長】中村 希代美 【委員数】6名 【開催回数】年間7回

2021年度 目標

委員会の設置

活動内容・成果

- ・虐待防止マニュアル、虐待防止セルフチェックシートの作成
- ・虐待防止研修

今後の課題

2022年度より義務化となった、必要な項目を洗い出し、環境を整えることが急務

2022年度 目標

- ・年4回の虐待防止セルフチェックリストの実施
- ・虐待防止に関する研修の実施と、虐待・虐待疑いの事例検討会の定期開催

チャレンジアップ委員会

【委員長】中村 希代美 【委員数】5名 【開催回数】年間7回

2021年度 目標

- ・ ネット研修を活用し、全活動者のスキルアップをサポートする
- ・ ネット環境の整っていない人にも対応できるよう、月に1度視聴会を開催する
- ・ 2か月に1題、課題研修を設定し、各自で視聴しながら学習内容を深めてもらう

活動内容・成果

- ・ 定期的な研修の機会をつくり、多くの活動者が同じ研修を受講することにより、意識の向上、スキルアップが進んだ
- ・ ネット環境の整っていない活動者向け視聴会を、月1回開催した

今後の課題

- ・ ネット環境の有無や、活動者本人の意欲などにより、受講率に差が生じてしまった
- ・ 対面研修ができないため、意見交換や学び合いの場を補う工夫が必要

2022年度 目標

より多くの活動者がネット研修を活用できるよう、サポートと啓蒙を行う

ラソ市委員会

【委員長】山崎 紀恵子 【委員数】3名 【開催回数】年間4回

2021年度 目標

委員会の設置としくみづくり

活動内容・成果

- ・ 地域たすけあいセンター絆にて、終日ふれあいマーケットを開催
- ・ 地域の縁側 喫茶 ラソプラザにて、月1回ラソ市を開催
- ・ 地域の縁側 グリーン・ラソにて、終日縁側ラソ市を開催（2022年4月～）

今後の課題

- ・ 物品の寄付を募ることで、出会いにつなげる
- ・ 物品置き場の確保と整理
- ・ 3か所のラソ市（ふれあいマーケット）の特徴を出して、地域住民の関心と売り上げをアップする

2022年度 目標

物品販売を、地域の方との交流や参加のきっかけづくりに活用し、絆の理解や周知につなげる



防災委員会

【委員長】亀石 綾穂 【委員数】6名 【開催回数】年間14回（会議12回, 訓練2回）

2021年度 目標

- ・消防署による施設点検・避難訓練（年2回）を行う
- ・大規模災害発生時の避難方法を確認し、ご家族へのスムーズな連絡と引き渡し方法等を検討する
- ・BCP（事業継続計画）の完成を目指す

活動内容・成果

- ・消防署による設備点検・年に2回の避難訓練を行った
- ・施設・備品の点検を行い、備蓄品の保管数と保管方法（ローリングストック）を決めた
- ・ラインワークスにて、毎月1回安否確認の訓練を実施した
- ・通所のご利用者家族に、大規模災害が通所中に発生した場合の対応方法を確認し、緊急連絡先の整備を行った
- ・BCPの作成を行った

今後の課題

作成したBCPの実効性の確認が必要

2022年度 目標

- ・BCPの内容の充実
- ・避難マニュアルの見直し



まつり委員会

【委員長】村瀬 文康 【委員数】未定 【開催回数】0回

2021年度 目標

ウィズコロナの時代における、各まつりへの取り組み方の見直し

活動内容・成果

2021年度も、新型コロナウイルスの影響で、まつりはすべて中止となった

2022年度 目標

まずは、絆まつりに替わるイベントを、小規模でも行えないか模索する

リスク管理委員会

【委員長】富田 真理子 【委員数】6名 【開催回数】年間15回（臨時委員会含む）

2021年度 目標

『ひやり・はっと』の提出率を上げ、事故事例などの収集・分析を行い、再発防止と事故を未然に防止する仕組みを構築する

活動内容・成果

- ・『ひやり・はっと報告書』の様式を検討・改善し、提出率向上につなげた
- ・『ひやり・はっと報告書の手引き』を作成し、各部署にて啓蒙活動を実施した
- ・月1回の委員会および臨時委員会の開催により、発生事例の対策状況や経過を把握し、再発防止に向けたフォローを実施した
- ・『ひやり・はっと宅急便』を随時発行し（2021年度は22回発行）、全活動者に対し、重要案件の事例共有と、再発防止の啓発をした

今後の課題

- ・『ひやり・はっと報告書』の情報をデータベース化
- ・『ひやり・はっと報告書』の提出電子化（報告提出の手段を増やす）

2022年度 目標

- ・発生問題の真因追及と対策をフォローをし、標準化を進める
- ・『ひやり・はっと報告書』の電子化および情報のデータベース化を進める

